

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-222956

(43)Date of publication of application : 16.09.1988

(51)Int.Cl.

B60R 22/12

(21)Application number : 62-057088

(71)Applicant : IKEDA BUSSAN CO LTD

(22)Date of filing : 12.03.1987

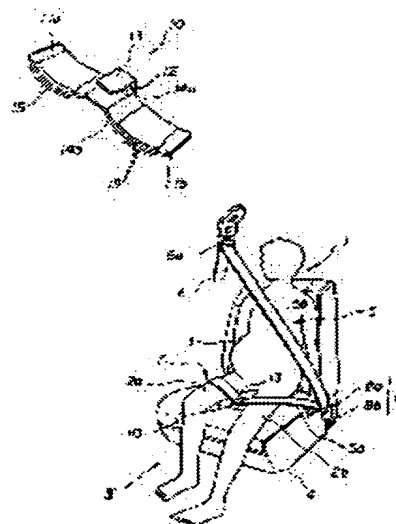
(72)Inventor : ASANO YOSHIHIRO

(54) SEAT BELT AUXILIARY TOOL

(57)Abstract:

PURPOSE: To allow even a pregnant woman to use a three-point type seat belt safely by laying a seat belt auxiliary tool below both thigh sections of a seated person and hooking the three-point type seat belt on its L-shaped hook section.

CONSTITUTION: A seat belt auxiliary tool 10 is laid on a seat 4, a person is seated so as to mount thigh sections 2a, 2b of both legs on both curved sections 11a, 11b covered with the cloth 15 or the like, the hooking metal 8a of a seat belt 5 is grasped and drawn out, the belt at almost the middle between the second hooking point 7 and the hooking metal 8b is inserted into the hook section 13 of the auxiliary tool 10, and the hooking metal 8a is coupled with a buckle 8b. Accordingly, the three-point type seat belt which normally presses the abdominal region can be safely used by a pregnant woman or the like as it is.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-222956

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)9月16日

B 60 R 22/12

8510-3D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 シートベルト補助具

⑮ 特 願 昭62-57088

⑯ 出 願 昭62(1987)3月12日

⑰ 発 明 者 浅 野 芳 弘 神奈川県綾瀬市小園771番地 池田物産株式会社内

⑱ 出 願 人 池田物産株式会社 神奈川県綾瀬市小園771番地

⑲ 代 理 人 弁理士 笹 井 浩 毅

明 細 書

1. 発明の名称

シートベルト補助具

2. 特許請求の範囲

着席者のシート脇の車側上方に第1係止点を、同じ側のシート脇に第2係止点を、該第2係止点とはシートを挟んで反対側シート脇に第3係止点を有する3点式シートベルトとともに着席者の両太腿下に敷いて用いられるシートベルト補助具であって、

補助具本体の前後の幅を少なくとも前記3点式シートベルトのベルト幅より大きく、かつ人体の太腿の長さより小さくし、

前記補助具本体に、着席者の太腿部を受ける部分であって、左右長手方向の対象位置に一對の上向きのわん曲部を形成し、

前記わん曲部の間の前記補助具本体の中間部に、前方を向いていて前記第2係止点と第3係止点との間にわたされるベルトを引掛けるし字形鉤部を突設したことを特徴とするシートベルト補助

具。

3. 発明の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本発明は自動車における安全用シートベルトを適切に使用できるようにしたシートベルト補助具に関する。

特に妊娠中の女性等、腹部をかばう必要のある着席者に適したものである。

「従来の技術」

今日一般に普及使用されている自動車のシートベルトの着用状態を第4図に示す。

周知のようにこの種の三点式シートベルト5ではロック機構内蔵の収納具6から第1係止点6aを経て、第2の係止点7及び第3の係止点8に掛け止めして使用する。

この状態ではシート4上に座した人体1に対し、第1と第3の係止点間の部分5bは人体1の上半身を斜めに抑制し、第2と第3係止点間では人体1の下半部3を抑制している。

3点式シートベルトは第1係止点6aと第2係

止点7の間に納まっているシートベルト5を、シート4上に着座してから、シートベルト5上にある係止金具8aを引張って第3係止点8のバックル8bに嵌着するだけで装着出来、扱いが便利であるとともに人体を確実に保護できるということが多用されている。

「発明が解決しようとする問題点」

しかしながら上記従来の3点式シートベルトでは第2、第3係止点間で、シートベルトは人体の腹部を抑制しているので妊娠中の女性等腹部を保護する必要のある人にとっては必ずしも適当なものではない。

すなわち、通常の着席状態であっても妊娠女性の腹部を圧迫し、胎児に悪影響を及ぼし、さらに急停車及び衝突などの緊急時にはたとえ母体が安全であっても胎児にとっては致命的悪効果を及ぼしかねない。

本発明は上記従来の3点式シートベルトの問題点に鑑み、従来の3点式シートベルトをそのまま使用出来て、しかも妊娠中の女性等にとっても安

全であるようなシートベルト補助具を提供することを目的としている。

「問題点を解決するための手段」

上記問題点を解決するための本発明の要旨とするところは、

着席者のシート脇の車側上方に第1係止点を、同じ側のシート脇に第2係止点を、該第2係止点とはシートを挟んで反対側シート脇に第3係止点を有する3点式シートベルトとともに着席者の両太腿下に敷いて用いられるシートベルト補助具であって、

補助具本体の前後の幅を少なくとも前記3点式シートベルトのベルト幅より大きく、かつ人体の太腿の長さより小さくし、

前記補助具本体に、着席者の太腿部を受ける部分であって、左右長手方向の対象位置に一对の上向きのわん曲部を形成し、

前記両わん曲部の間の前記補助具本体の中間部に、前方を向いていて前記第2係止点と第3係止点との間にわたされるベルトを引掛けるし字形鉤

部を突設したことを特徴とするシートベルト補助具に存する。

「作用」

シートベルト補助具をシート上に置きその上に両脚の太腿部を載せるようにして着席し、通常のようにシートベルトを繰り出しながらベルトの係止金具と、第2係止点との中間部をシートベルト補助具の鉤部に引かけ、シートベルトの係止金具をバックルに嵌着してシートベルトの装着が完了する。

外すときはシートベルトの係止金具を前記バックルから外してから緩くなったシートベルトを前記鉤部から外せばよい。

上記のように使用することにより、従来妊婦等の腹部を圧迫していた3点式シートベルトの前記第2及び第3係止点間部分は妊婦の両端太腿部を支えることにもなり、万一急停車した場合でもベルトの前記部分は両脚と股間に挟止され、腹部を圧迫することがなく妊婦等腹部をかばう必要のある着席者に対して安全である。

「実施例」

以下、図面に基づき本発明の一実施例を説明する。なお、従来例と同様の部位には同一符号を付する。

第2図においてシートベルト5はいわゆる3点式といわれるもので、ロック機構と繰り出し機構を兼備した収納具6からシートベルト5が繰り出されて第1係止点6aを通過しており、第2係止点7は第1係止点6aとシート4に対して同じ側の下方、シート脇に設置されており、第3係止点8はシート4に対し前記第2係止点7と反対側に備えられている。

第3係止点8は元来この位置に設置してあるバックル8bにシートベルト5上の係止金具8aを嵌着して成る。

シートベルト5は第1係止点6aと第3係止点8間の部分5bと、第2係止点7と第3係止点8との間の部分5aとに分かれている。

シートベルト補助具10は人体1の脚の太腿部2a、2bの下に敷かれており、シートベルト5

の前記部分5aはシートベルト補助具10の鉤部13に掛止めされている。

第1図はシートベルト補助具10の斜視図であって、補助具本体の両端部に左右対称に人体1の脚の太腿部2a、2bに合わせた一対の上向きのわん曲部11a、11bがあり、両わん曲部11a、11bの間の中間部は平坦部12で結ばれている。

平坦部12の後端部14aに基端を有し、L字形の鉤部13が前端部14bに先端を向けて開くよう突設されている。

前記鉤部13の長さはシートベルト5の幅よりやや長めの方が良く、またシートベルト補助具10の幅、すなわち前記後端部14aと前端部14bとの間の前後幅は前記シートベルト5の幅より広く、人体1の脚の太腿部2a、2bの長さより小さく設定されている。

本実施例では、前記わん曲部11a、11b、平坦部12及び鉤部13は一体に成形されている。

さらにわん曲部11a、11bの上下両面には、柔いクッション性のある布15などで被覆してある。

第3図は第2図における四矢視図で、脚の太腿部2a、2bがシートベルト5の部分5aとシートベルト補助具10との間に挟まれた状態で示されている。

次に作用を説明する。

シートベルトを着着するときには、先づシートベルト補助具10をシート4上に置く。このとき前端部14bを車の進行方向に向けておく。そしてわん曲部11a、11bに脚の太腿部2a、2bを載せるように置き、シート4に着席する。着席時、鉤部13は太腿部2a、2bの間より覗けるよう位置を決める。ついで通常の如くシートベルト5の係止金具8aを掴んでシートベルト5を延ばしながら第2係止点7と係止金具8aの間あたりを指頭で押して鉤部13に嵌め込み、前記係止金具8aをバックル8bに嵌着する。

シートベルト5の部分5aと5bの長さの加減

およびシートベルト補助具10の位置などを調整して最適の状態にあるかを確認して着席が完了する。

外すときは係止金具8aをバックル8bから離脱し、シートベルト5が緩んだとき同時に鉤部13からも外せばシートベルト5は非着用の状態となり、着席者が開放される。

「発明の効果」

本発明に係るシートベルト補助具によれば簡単に安価な補助具により、そのままでは腹部を圧迫して妊婦等には使用上危険なことがあり得る従来の3点式シートベルトを、何ら変更を加えることなくそのまま妊婦等にも安全に使用でき、腹部をかばう必要がある特別な着席者の安全性を向上することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はシートベルト補助具の斜視図、第2図はシートベルト補助具を用いたシートベルト着用状態を示す斜視図、第3図は第2図における四矢視図、第4図は従来の3点式シートベルト着用状

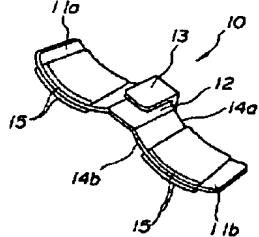
態を示す斜視図である。

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1…人体 | 2a、2b…太腿部 |
| 3…腹部 | 4…シート |
| 5…シートベルト | |
| 5a…第2、第3係止点間の部分 | |
| 5b…第1、第3係止点間の部分 | |
| 6a…第1係止点 | 7…第2係止点 |
| 8…第3係止点 | |
| 10…シートベルト補助具 | |
| 11a、11b…わん曲部 | |
| 12…平坦部 | 13…鉤部 |

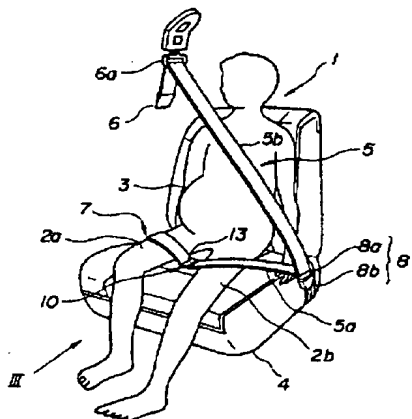
代理人 森上 征 浩 設



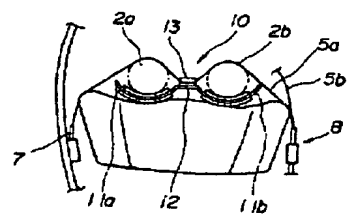
第1圖



第2圖



第3圖



第4圖

